

市ノ瀬の歴史

白山は、越前の僧、泰澄によって、養老元年(717年)に開かれ、平安時代には、越前、加賀、美濃からそれぞれ頂上をめざす禪定道が開設されて、多くの人が登拝したと伝えられています。このうち越前禪定道は、平泉寺白山神社から小原峠、三ツ谷、市ノ瀬を通り、六万山から尾根伝いに今の観光新道を通り室堂に達していました。その頃から、市ノ瀬は登拝口として賑わっていたと思われ、明治初期には市ノ瀬に22戸、赤岩と三ツ谷に50戸も家屋がありました。また、温泉も早くから開かれ、江戸時代には、すでに名湯として世に知られていたようです。しかし、相次ぐ水害などで居住者は減少し、中でも昭和9年7月の大水害は、温泉を埋め、多くの家屋を流失させ、多数の死傷者が出ました。約30mもの高さまで土石で覆われたといわれており、現在の市ノ瀬の建物はその上に再建されたもので、駐車場で見られるドロノキの大木も、昭和9年以降に生えたものです。



百万貫岩

昭和9年の水害で流されてきた岩。白峰と市ノ瀬の中ほどの牛首川(手取川)にあります。1995年の建設省(現国土交通省)の調査によると、その重量は4,835トン(約130万貫)と推定されています。

市ノ瀬の主な施設

市ノ瀬ビジターセンター：展示、休憩、自然情報・登山情報の提供。5～10月の土・日曜には希望者に1～2時間程度のガイドウォークを実施しています。
0761-98-2504(5月1日～11月5日)
市ノ瀬野営場：テントサイト20張。炊事棟、トイレ、野外卓等完備、6～10月下旬。
永井旅館：宿泊130人。4月下旬～11月中旬。
0761-98-2339
駐車場:750台(2,910m²)



市ノ瀬ビジターセンター



市ノ瀬野営場

市ノ瀬周辺の自然観察
—ガイドマップ—



岩屋俣谷園地 白山展望台からの白山

ちよっぴり深く白山の自然を…



白山の自然観察シリーズNo.3

ちよっと深く白山の自然を
味わいたいと感じた皆さんへ…

市ノ瀬は、白山登山の玄関口として昔から重要なところでした。現在でも登山者の9割以上が市ノ瀬を通して白山へ登っています。

しかし、市ノ瀬を基点に少し足を伸ばすだけで、ブナの原生林など、ふとこころ深い白山の自然にふれることができます。このガイドマップを手に、ぜひ出かけてみて下さい。



市ノ瀬ガイドウォーク

市ノ瀬及びその周辺一帯は、白山国立公園区域です。次のことに注意して、快適な公園の利用に心がけましょう。

- ☆ゴミや空きカンは持ち帰りましょう。
- ☆動植物や土石の採取はやめましょう。
- ☆施設を破損したり、汚したりしないようにしましょう。
- ☆ラジオや拡声器などによる著しい騒音は慎みましょう。
- ☆国立公園(自然公園)内へのペットの連れ込みはやめましょう。

バス：北陸鉄道。7月中旬から8月中旬は金沢駅から白峰を経由し、日に1～4本。7月上旬や秋は土・日曜、祝日のみ1日1本。詳しくは北鉄テレホンサービスセンター(076-237-5115)へ。

マイカー：金沢から国道157号で約2時間。市ノ瀬～別当出合は、7月中旬から10月上旬にかけての夏山、秋山の週末を中心に交通規制が実施され、マイカーは市ノ瀬止まりとなります。別当出合まではシャトルバスが運行されます。詳しくは石川県白山自然保護センター(0761-95-5321)へ。
(注)通常、11月中旬～4月の期間は白峰で通行止め。



写真：竹谷宏二氏・石川県環境安全部・自然保護課
石川県白山自然保護センター

編集／石川県白山自然保護センター
〒920-2326 石川県白山市木滑4
TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323
E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp
URL http://www.pref.ishikawa.jp/hakuan/index.htm
発行／石川県・白山市 2008.3(2005.8 15,000を修正)

6 チブリ尾根コース(別山・市ノ瀬道)

市ノ瀬 1:50→ 上の水場(3km) 2:00→ チブリ尾根
←1:20 ←1:20 避難小屋(6km)

ブナ林を手軽にゆっくりと観察できることでは、白山随一といってもいい観察コースです。市ノ瀬からの距離が短いことも利点です。南竜ヶ馬場から別山を経由して、下山に利用されることもありますが、自然観察には市ノ瀬を基点に、ブナ林まで往復するよいでしょう。市ノ瀬から、六万橋を渡る手前を右の道に入ります。川を渡り、ヤナギ類などの河畔林の中を通過して、猿壁えん堤にでます。ここから右の登山道に入ると、すぐに大きなトチノキやサワグルミなどの林になります。ゆるい登りが続き、だんだんブナが多くなってきます。ブナの花や実は、クマやサル大好物です。太い幹にクマの爪痕を見ることができます。やがて標識のある水場があります(市ノ瀬から3km)。これから上には、水場はありません。ゆっくり休んでから戻るとよいでしょう。耳をすますとヒガラやシジュウカラなど鳥の音がよく聞こえます。バードウォッチングをするなら、早朝に出かけましょう。6月頃にはエゾハルゼミの大合唱を聞くこともできます。ブナ林から亜高山帯のダケカンバなどの林を抜けると、チシマザサの草地に出ます。別山の眺望が楽しめ、7月上旬にはササユリやニッコウキスゲなども咲きます。ここから小屋までは、15分くらいです。



トチノキ

クリに似た実は苦いが、アクを抜いてトチモチの原料にします



ゴジュウカラ

幹を上下しながら餌を探します。フイフイとさえずります



ブナの木につけられたクマの爪痕



新緑のころの別山

小屋からは、主峰部の眺めもすばらしい

7 白山釈迦岳コース(釈迦新道)

市ノ瀬 1:30→ 登山口 1:20→ 水場 2:00→ 白山釈迦岳
←1:00 ←0:50 ←1:10 前峰(7km)

室堂からの下山路として使われるほか、白山釈迦岳前峰までの日帰り登山にもよく利用されています。距離が長いので、しっかりした登山装備が必要です。市ノ瀬ビジターセンターから、吊り橋を渡って車道を少し行くと、ヘアピンカーブのところに登山口があります。スギ林の中を進んでいくと、この道はしばらくで、工事用車道(一般車通行禁止)に出ます。車道を1時間ほど歩き、湯の谷にかかる橋を渡って少し行くと、左に登山口があります。登山道はすぐにブナ林の中を歩くようになります。ブナの大木が見られ、ブナの落葉を踏みしめて歩く気持ちのよい道です。5～6月頃にはコブシに似たタムシバや葉の大きなオオカメノキなどが花をつけ、足元には白い花のツバメオモトやマイヅルソウなどがひっそりと咲いています。やがて水場に着きます。市ノ瀬から約3時間、ブナ林が目的の場合は、ここで引き返すとよいでしょう。ブナ林が終わると、亜高山帯に入ります。白山では多雪に適応したダケカンバが多く、雪に弱いオオシラビソは尾根筋に生えます。やがて、釈迦岳前峰に達します。白山の主峰、御前峰から別山までのパノラマが楽しめます。さらに30分ほど進んだ鞍部には、6月下旬頃にミズバショウやリュウキンカなどが見られます。



アサギマダラ

夏から秋。ふわふわと舞うように飛び様子が見られます



ツバメオモト

高さ20cm前後。花のあと、青い実をつけます



キビタキ

夏鳥。ブナ林で繁殖し、美しい声でさえずります



釈迦岳前峰からの白山

左の丸いのは大汝峰、右の尖ったのが御前峰

ブナ林の自然

ブナは、温帯の代表的な樹種で、人手が加わる前は、低山から広く山地帯をおおっていました。現在、白山地域には、標高1,000～1,600mあたりにブナの原生林が見られます。樹高30m、直径1.5mを超えるものもあり、樹齢は300～400年とされています。

日本海側のブナ林は、主に多雪地に適応した植物で構成され、高木にはブナのほかミズナラ、イタヤカエデなどが混ざり、低木には、オオカメノキなどの落葉樹のほか、エゾユズリハやチシマザサ、ハイイヌガヤなどの常緑樹が見られます。また、キクザキイチゲやニリンソウ、エンレイソウなどのスプリング・エフェメラル(春のはかない命)と呼ばれる植物たちは、ブナなどの高木が葉を広げる前の太陽の光が林の下まで届く短い春の間に花を咲かせ、実をつけます。

豊かな植物相を反映して、動物も多くの種類がみられます。特にツキノワグマやニホンカモシカなどの大型哺乳類の生息地として、白山のブナ林は全国でも有数のものといえます。鳥類もヒガラやゴジュウカラなどのカラ類をはじめ、キビタキ、コルリなど多くの鳥が住んでいます。繁殖期にあたる春から夏は、鳥たちのさえずりで最もにぎやかな季節となります。昆虫では、フジミドリシジミやアサギマダラなどの蝶がみられ、エゾハルゼミの合唱も聞かれます。

秋には倒木に何種ものキノコが生え、無数の土壤動物などと共に、有機物の分解に一役買っています。



新緑のブナ林

芽吹きから新緑、紅葉、冬木立と、四季それぞれの景観がすばらしい



ニホンカモシカ

石川県内の山地に約4,000頭生息するとされています。特別天然記念物



コルリ

姿もさえずりも美しい鳥。チッチッピンツルルなどとさえずります

1 根倉谷園地のミズバショウ群生地

白峰から市ノ瀬への途中、市ノ瀬発電所の手前にあり、入口に標識が立っています。面積約3,000m²の湿地に、およそ1万株のミズバショウがあるといわれています。見ごろは4月下旬から5月上旬頃で、あたり一面にミズバショウの花が咲きます。また、秋にはアケボノソウやエゾリンドウなどの花を見ることができます。湿地の奥にはクリやミズナラなどの林があり、秋にはたくさんのキノコが観察できます。



ミズバショウ
白い花びらのように見えるものは葉の変化した苞(仏焔苞)



エゾリンドウ
茎の先と葉の付根に5~20の花をつけます。花屋で売られているリンドウはこれの栽培品種

2 自然観察路

キャンプ場から、川の下流に向かって続く、1周約40分の観察路です。小さな流れに沿って木道がつけられています。ドロノキ(ドロヤナギ)などのヤナギ類やハンノキ類が多く見られ、春にはフタリシズカヤスミレ類、夏から秋にかけては、タマガワホトトギス、オオウバユリ、サワオトギリ、ツリフネソウなどの花を観察することができます。また、水辺では、餌を採るキセキレイを見かけることもあります。



自然観察路



ドロノキ
秋に綿毛のついた種が、風に乗って飛びます

3 市ノ瀬池

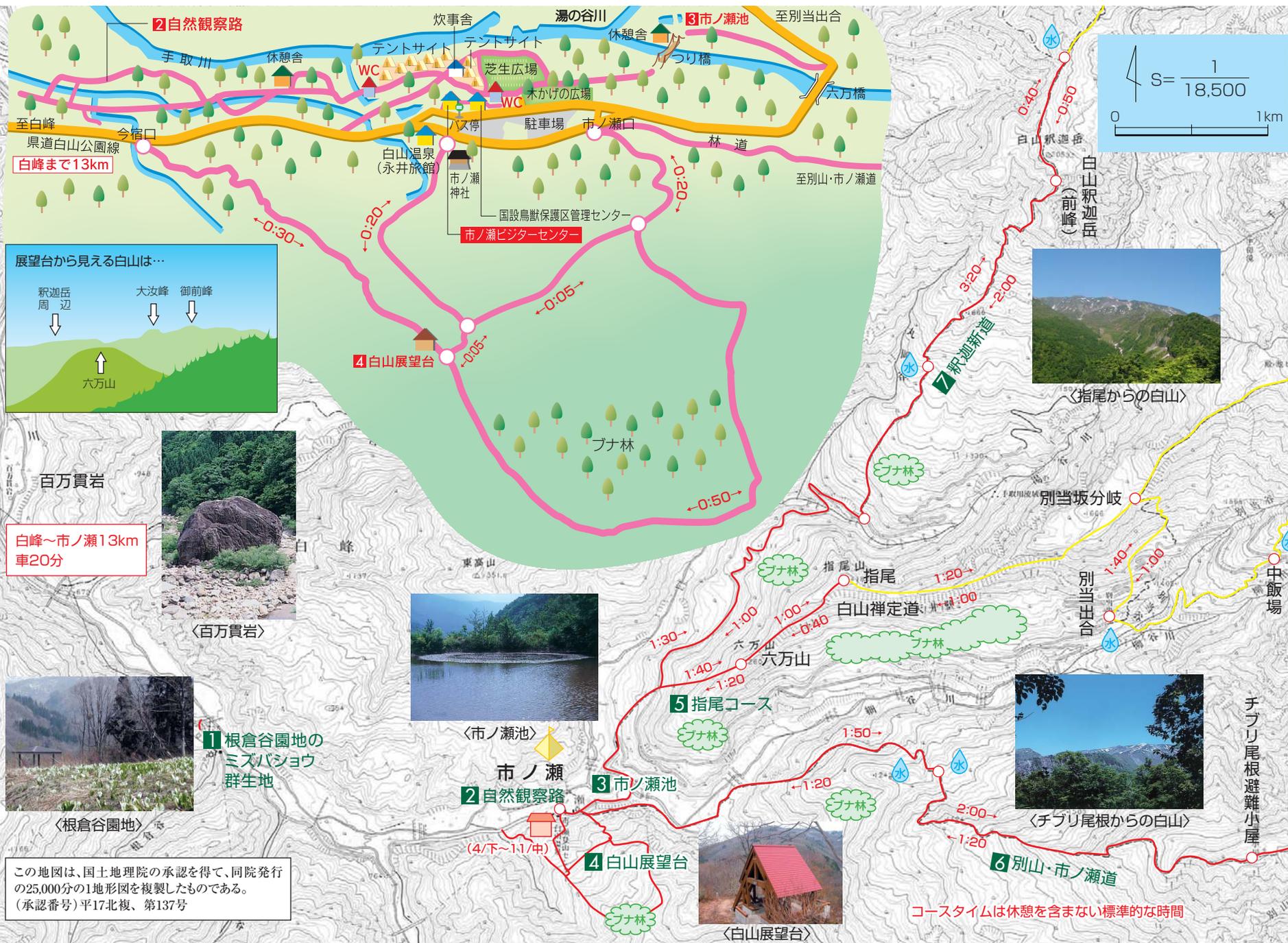
木かけの広場をとり、吊り橋をわたると休憩舎があり、その前に大小2つの池があります。もともとは砂利を洗うための人工の池でしたが、使われなくなってからは、イモリやトンボ類の貴重な棲みかとなっています。市ノ瀬周辺ではここ以外ではあまり見ることができないフトヒルムシロなどの水生植物のほか、エゾイトンボやオオルリボシヤンマなどたくさんのトンボ類を見ることができます。また、6月頃にはモリアオガエルの卵塊が木の枝にぶら下がっているのを見ることができます。



オオルリボシヤンマ
オスは成熟すると体にある模様鮮やかな瑠璃色になります



モリアオガエルの卵塊
卵塊の中で生まれたオタマジャクシは下の水面に落ちていきます



展望台から見える白山は…

- 釈迦岳 周辺
- 大汝峰
- 御前峰

六万山

百万貫岩

白峰～市ノ瀬 13km 車20分

〈百万貫岩〉

根倉谷園地のミズバショウ群生地

〈根倉谷園地〉

この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の25,000分の1地形図を複製したものである。(承認番号)平17北複、第137号

4 白山展望台(岩屋俣谷園地)

登り口は、市ノ瀬口と今宿口、永井旅館横からの3か所があります。今宿口からはスギ林を抜けるとミズナラやカエデ類、オオカメノキなどの林が続きます。春にはイワウチワがたくさん咲いています。シジュウカラ、ウグイス、カケスなどの鳥の声もよく聞かれます。やがてイワハゼなどが生える乾いた道になり、展望台に着きます。ゆっくり歩いて30分くらいでしょう。展望台からは左から白山釈迦岳、大汝峰、御前峰と続く眺望が楽しめます。展望台から上のコースにはブナの純林を見ることができます。永井旅館横からあがると市ノ瀬神社があります。市ノ瀬神社には、昭和9年の大水害で流出を免れた仏が安置されています。このあたりではかつて有用植物として植えられたクリやオニグルミなどを見ることができます。



イワウチワ
岩場に生え、葉の形が団扇に似ていることから名付けられました



イワハゼ(アカモノ)
花は5月頃。実が赤く熟すとところからアカモノともいわれます



シジュウカラ
ネクタイのような線が特徴。ツツピーツツピーとさえずります



市ノ瀬神社
木造薬師如来立像、木造聖観音座像がまつられています

5 指尾コース(白山禅定道〔旧 越前禅定道〕)

市ノ瀬 1:40→ 六万山 1:00→ 指尾
←1:20 ←0:40

福井県勝山市の平泉寺白山神社から白山山頂へ続く旧越前禅定道の一部。廃道となっていたが、市ノ瀬～観光新道分岐までが平成11年に復元されました。市ノ瀬から六万山を経由して指尾(標高1,480m)までの日帰り登山コースとして、特に春や秋には白山眺望に良いコースです。指尾は白山を遥拝した「伏拝」とよばれる場所で、指尾からは大汝峰から御前峰、別山までを一望することができます。また、このコースでは幹周り3mを超えるヒノキの巨木を見ることができます。



石仏
指尾にある石仏。廃仏毀釈で多くの石仏が破壊されました